

職員数	専任事務部長	所長	次長	主任指導事	指導主事	主査	主事	主任保健師	主任運転手	計
数	1	1	1	1	4	1	1	1	1	12

2 平成9年度重点目標と成果

(1) 研修活動の内容の充実と利用促進

① 利用団体の研修活動の充実

- ア 団体の多様な研修活動に対応できるよう新しい活動（七宝焼きやキーホルダーづくりなど）を開発し、活動内容の充実に努めた。
- イ 自主的、主体的な研修活動を促進するため、活動プログラムの作成に当たっては当該団体と連携を密にし、ながら、研修生の興味関心を高め、楽しく活動できるような指導援助に努めた。

② 各種団体の利用拡大と広報活動の充実

- ア 利用者が減少傾向にあるため、学校をはじめとする社会教育機関・団体、企業等の訪問等を行い、併せてファミリーについても利用促進に努めた。
- イ 施設紹介のため、所報の内容を工夫して、広く関係方面へ配布し、利用の促進に努めた。
- ウ 近隣地域の団体等に、日帰り（一日研修）による利用も可能である広報も行った。

(2) 主催事業の効果的な運営

① 海浜地域の特性を生かした主催事業の実施

- ア 親と子海浜のつどい（8月に実施）
- イ 青春・海への挑戦（8月に実施）
- ウ 海浜ファミリーのつどい（5月、7月に実施）
- エ 学校週5日制対応事業（年7回実施）
- オ 集団宿泊指導担当者研修会（5月・2月に実施）

② 事業内容の工夫・改善

- ア 前年度の反省・評価を踏まえ、参加者の興味関心を高めるための内容の工夫改善を図るとともに、ゆとりある活動プログラムで実施した。
- イ 事業実施に当たっては、可能なかぎり、地域のボランティアの協力を得て実施した。

(3) 現職教育の計画的推進

① 所内研修の充実

- ア 研修生の意向を把握しながら興味ある活動とするため、野外活動にかかる実技研修、コース踏査、活動内容の工夫に努めた。
- イ 各種研究協議会、研修会等に参加し、指導者としての資質の向上に努めた。
- ウ 学校不適応児童生徒に対する野外活動等の指導の在り方の研修に努めた。
- エ 活動にかかる教具・教材の工夫・改善に努めた。

② 施設・設備機能充実等の研究

- ア 既存施設等の効果的活用を図るため、利用者の要望を踏まえ、施設機能の改善に努めた。
- イ 視聴覚機器等の有効活用について研修した。
- ウ 施設周辺の新たな教育の場の開発とその指導法の研

修に努めた。

(4) 安全管理と保健安全の指導

① 施設等の保全と安全対策の徹底

- ア 火災関係の設備の整備・点検に努めるとともに、計画に基づき、防火防災訓練を実施し、非常時に即対応できる体制を整えた。
- イ 日常点検・定期点検を計画的に実施し、活動中の事故防止に努めた。
- ウ 野外活動の施設およびコース・エリアの安全点検を実施し、活動中の事故防止に努めた。

② 安全指導の徹底と事故防止

- ア 活動エリア内の市道における車両通行量の増大に伴う安全指導の徹底を図り、交通事故の防止に努めた。
- イ 各団体の引率者・指導者との連携を密にし、活動中の事故、特に、海での事故の未然防止に努めた。
- ウ 危険の想定される区域での活動における具体的遵守事項の徹底指導と監視体制の強化を図り、事故防止に努めた。

③ 保健指導・衛生管理の徹底と食中毒の防止

- ア 研修生の活動中の健康観察を引率者とともに随時行い、必要に応じて保健指導に当たった。
- イ 施設内の衛生管理検査を定期的に行い、特に食堂・厨房については徹底して行い、健康にかかる事故防止にあたった。
- ウ 給食委員会を定期的開催し、関係職員の共通理解を図りながら、食中毒等の事故防止にあたった。
- エ 食中毒防止のため、研修生に対する手洗いの励行指導を徹底して行った。

(5) 施設・設備の整備

① 施設・設備の整備・充実

- ア 研修活動に必要な施設・設備の計画的整備に努めた。（キャンプ場トイレの水洗化、キャンプ用テント・研修用テレビ・七宝焼窯等の整備）

② 環境緑化の推進

- ア 樹木園、花壇、屋内緑化等環境緑化を計画的に進め、研修生の情操教育の一助とした。
- イ 地域や研修団体のボランティア活動による協力を得て、施設周辺の整備がなされた。

第2節 施設・設備の概要

1 所在地

相馬市磯部字大洲38番地の3

2 宿泊定員

- 本館定員 200名（ベッド部屋22室、和室2室）
- キャンプ場定員 100名（5人用テント20張）

3 敷地面積

- 20,000㎡